

3・13重税反対全国統一行動八幡戸地区実行委員会は、定例の消費税引き下げ街頭宣伝行動を黒崎駅前で行い、八幡・八幡西民商と年金者組合の2団体、10人が参加しました。

晴天の暑い中、役員たちは幟を立て「消費税5%」「インボイス廃止」のプラカードを手に駅前を通る方に訴えました。チラシ30枚ほどを手渡ししながら、消費税引き下げに「賛成」「反対」のシールアンケートを行い、「賛成」9票「反対」0票でした。



シールアンケートに投票する30代女性(左)



消費税街頭宣伝行動に参加した団体の皆さん

「30代の女性は「食料品の消費税を1%に下げても2年後に戻すのは、物価高対策としてどうなんだろう」「下げたままでもいい」と同感し、「頑張っただけ」と声を掛けてくれました。20才の男子学生は、「消費税、これは売上税です。こんな悪税はなくすべきです」と話し、横にいた彼女が、「彼は、大学の政治経済学部です。」と、2人とも消費税の引き下げ「賛成」に、シールを貼りました。私たちは、しっかりと学んでいる若い人がいるのかと感心しました。

付加価値税を最初に導入したのはフランスです。当時のフランスは、第二次世界大戦後の復興の最中、国内経済を活性化するため輸出企業にその責務を果たしてもらうべく輸出補助金を出していました。しかしながら、GATT(関税及び貿易に関する一般協定)ができたときに、自国企業にのみ補助金を出していることがGATTに抵触することになりました。そのため、何とかして自国輸出企業に補助金を出せないかと考えたされたものが付加価値税というわけです。当初から付加価値税は輸出補助金の役割を果たすことが期待された税制であったわけです。日本における消費税も付加価値税を模倣したものであり、本質的に異なることはなく、輸出企業に対する補助金というところはそのまま表れています。

こんな税制は国民にとつて、「百害あつて一利なし」です。皆さん、一緒に「消費税5%」「インボイス制度廃止」と、一緒に声をあげましょう。

今週の花

会員さん宅に咲くボーチュラカ(レインボー)。花言葉は、「いつも元気」「無邪気」「自然を愛する」です。色別の主な花言葉には、赤・ピンクの「いつも元気」、黄・オレンジの「自然を愛する」、紫の「無邪気」、白の「可憐」があります。



8月	行事・会議など日程	支部・専門部など
3月		
4火	原水禁世界大会 広島	
5水		
6木		
7金		
8土		
9日	倉敷民商福岡の会総会	15日集金
10月		
11火	山の日	15日集金
12水		
13木		
14金	盆休み	
15土		
16日		
17月	記帳相談会 13:30~	
18火		
19水		
20木		
21金		
22土		
23日	共済会総会 11:00~	
24月		
25火		
26水	財政新聞部会 19:00~	
27木		
28金		月末集金
29土		
30日		
31月		月末集金

中小企業者の苦難に心を寄せ、強く大きな民商建設を

全商連 第33回 事務局員交流会

アメリカによるイラン攻撃に始まったホルムズ危機で、燃料・資材不足と高騰が常態化し、厳しい経営状況が長期化する中、全商連第33回事務局員交流会は全国4会場に分かれて開催され、712人の事務局員と38人の役員が参加しました。



福岡会場 天神エルガーラホール

1日目は日本国家公務員労働組合連合会の井上伸さんから、「仲間の力を引き出す『対話と学び合い』」と題して講演が行われました。講演では、主体的に物事を捉えて参加してもらうためにはどうしたら良いかを中心に、会議の持ち方や、組織者としての事務局員の役割などを学びました。

また、パネルディスカッションでは3民商の事務局員から発言があり、北海道・札幌中部民商の富堂事務局長からは役員を中心とした商工新聞拡大や会議運営、商工新聞配布などの取り組みが報告されました。奈良県・奈良民商の坂田事務局員からは、合併を機にスタートした支部活動で、拡大行動・レクレーションなど月1回の支部活動の中から、若い役員を増やしてきた取り組みが報告されました。大分県・大分民商の河野事務局員からは、大分県連と青年部によるインスタグラムを使った民商宣伝の取り組みが報告されました。

報告と問題提起では全商連の牧事務局長から、①規約・方針を深く学び、活動に対して確信を新たにすること、②日常活動の交流を通じて、事務局活動の改善の方向を明らかにすること、③同志的な友情と団結を強めることを中心に報告され、1日目は終了となりました。

その日の夜は福岡県連・長崎県連と一緒に懇親会を行い、日ごろ話すことのない県外の民商事務局員と大いに交流することが出来ました。

2日目は分散会からはじまり、「入局してまだ数ヶ月。民商がよく分からない。」の質問にベテラン事務局員からのアドバイスがあったり。「新しい事務局員が見つからない。」「次の世代に民商を残すため、役員を何とか増やしたい。」など各民商の取り組みや事務局員としての悩み・疑問を出し合い交流を深めました。

昼からは、福岡会場に参加している10県連から代表して発言があり、福岡県連は久留米民商の稲吉事務局次長が発言されました。

最後に、閉会挨拶と団結頑張ろうを全商連の岩瀬副会長が行い、直面するホルムズ危機に対し、「民商は唯一の相談場所であり、その受け皿になるため、事務局員の積極的な活動に期待したい。」と挨拶され、閉会となりました。

事務局員 清水



最後にみんなで「団結ガンバろう」。

交流会に参加して・・・

国公労連の井上伸さんの講演では、「役員請負型」から「戦略的な運動へ転換」へどう変えていくか、役員と事務局は「車の両輪」を軸に持ち民商活動に活かしていく事を学びました。パネルディスカッションでは、各民商の工夫と努力が見られ参考になりました。全商連牧事務局長からは、報告と問題提起があり「特別措置」組織前進の条件が掲げられました。特別措置を実践し、会員減少を止め、増勢にできるよう役員と共に頑張りたいと思います。分散会では、各民商の特徴が現れた話が聞けて視野が広がりました。

正岡事務局員

学習講演では、会議の進め方や内容を少しずつ変えるだけでも、役員や参加者が発言しやすくなることや、発言がすることによって自然とコミュニケーションを取れる会議にできることを学び、今後の参考にしようと思いました。

分散会では、各民商の取り組みや経験、地域性の話を聞くことができたことが非常に勉強になった。ただ、どこも一番の悩みは同じで、「役員を作ること」でした。その後の代表者発言の際に、ある事務局が「1人1人が自信をもって民商活動をしていくことが大切。」と話され、自分自身も、役員もみんな1人1人が自信をもって活動していく中で、一緒に参加してくれる会員を探して行こうと思いました。

中園事務局員

第31回 平和のための戦争展

日時：8月28日（金）
10：00 ～ 18：00
8月29日（土）
10：00 ～ 18：00
8月30日（日）
10：00 ～ 16：00

会場：黒崎コムシティ
（JR黒崎駅隣）

入場料：入場無料

《 主な企画 》

○29日（土）13：00～16：30

7階子どもホール

- ①平和のうたごえ
- ②記念講演（青木 茂さん）
中国人強制連行
強制労働と万人抗
- ③青年の主張

○30日（日）13：00～

3階大会議室

- ①戦争の語り部
松尾 高林さん（92歳）
『八幡大空襲を経験したのは
国民学校6年生の時だった』